

「第 12 回環日本海環境協力会議」  
環境省地球環境局長挨拶

会議の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、我が国を代表して、この会議のために遠路ばるばるご参加いただいた、中国、モンゴル、韓国、ロシアの代表団の皆様、並びに、日本国内の各地からお集まりいただいた参加者の皆様に、心より歓迎いたします。

また、日頃から、北東アジア地域における環境協力の推進にご尽力いただいている、国連環境計画の代表の方々に対しまして、深く敬意を表します。

さらに、本会議の準備にご尽力いただきました方々、とりわけ、地元富山県、富山市の皆様に対しまして、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

北東アジア地域には、異なる言語、習慣、宗教を持つ多様な民族が暮らし、古来から社会的、文化的な多様性が育まれてきました。

また、経済面から見ても、当地域には、様々な発展段階にある国々が含まれております。

さらに、地理的に見ても、寒帯から亜熱帯までの広がりの中で、自然条件においても大きな多様性を有しております。

このような多様性のため、各国ごとに、優先度の高い環境問題は異なっておりますが、環境保全、そして、環境協力を促進しようとする意思は、本日の参加者すべてに共通のものであると信じております。

環日本海環境協力会議は、北東アジア地域における環境問題の解決に向けた情報交換と、国際的な協力・連携のあり方を、自由かつ率直に話し合う重要な機会として、1992年に我が国の新潟市で初めて開催され、本日ここに第12回を迎えることができました。

このことは、参加各国の環境保全、そして、環境協力に対する強い意思の表れではないでしょうか。

今回の会議は、「海洋環境の保全」、「循環型社会の形成」、「地方公共団体を中心とした北東アジア地域の環境協力」をテーマとして開催されます。

また、本日は、「黄砂を取り巻く各国の現状」と題したシンポジウムを開催致します。これまでと同様、率直かつ真摯な議論が交わされ、当地域における環境協力がさらに促進されることを期待いたします。

環境問題の多くは、私たち一人ひとりの生活にも起因しています。環境に優しい社会を構築していくためには、個人、事業者、地域社会、地方公共団体、国などのあらゆる主体が、それぞれの立場に応じた行動に参画することが求められています。そして、こうした主体が、それぞれの取組みを進めるとともに、各主体の特徴と役割を發揮しながら、相互に連携することで、より大きな効果を生み出すことができます。

さらに、こうした連携を、国際的に広げていくことが、地球規模での持続可能な社会の実現に、一步ずつ近づいていくことにつながっていきます。

今回の会議における活発な議論が、北東アジア地域、さらには地球規模での環境問題の前進に、貢献できますことを祈念いたします。

ご静聴ありがとうございました。

二〇〇三年十一月二十四日

環境省地球環境局長 小島 敏郎